

コード	II-5-10	施策名	地域内交流・地域間交流
まちづくりの目標	地域の輪で心がかよい、市民が集うまち(地域の絆)		施策の方針 みんながつながり支え合う
5年後のめざす姿	いつまでも住み慣れた地域で安心して暮らすことができるよう隣近所や地域で助けあい、地域の特徴や資源を活かし活性化する「地域力」を高め地域共生社会の構築に努めます。地域活動として行われる祭り、伝統行事、スポーツ活動や防災活動など各種の取り組みを推進します。地域振興協議会を中心に子どもから高齢者まで世代や性別を超え交流し、各種団体も連携することなどで地域の一体感の醸成を図り、顔の見える関係を築きながら地域活動の活性化を推進するとともに高齢者等の健康づくりや見守り、生活支援活動、児童見守りなど活動などの支え合い、助け合う仕組みづくりの構築を支援します。地域活動を担う人材の育成、地域の自主財源確保や生きがいづくりの推進など自立的な活動につながるよう支援を行い地域活動の拠点となる施設の整備、維持管理に努めます。		
施策の課題	人口減少に加えて、高齢化が進んでいることから、地域活動を担う人材になり得る世代の数が減りつつある。また、自主財源化を模索する地域もあるが、思うように収益化できていない現状にある。		

< 施策の進捗を測るものさし(指標) ~ 第2次臼杵市総合計画 後期基本計画 >

新規指標	指標名	指標の説明	指標数値の推移							
			単位	R1	R2	R3	R4	R5	R6	
	地域振興協議会への集落支援員の配置【累計】	集落支援員が配置された地域振興協議会の数	目標	箇所	12	12	14	16	17	17
			実績		12	12	14	15	17	
			達成率	%	100.0%	100.0%	94.0%	100.0%		
	共助の取り組み実施回数(年間)	防災関連、お年寄りの見守り活動、子どもの健全育成活動、生活支援活動(移動支援等)の実施回数	目標	回	60	60	70	80	90	100
			実績		50	45	49	52	60	
			達成率	%	75.0%	70.0%	65.0%	66.7%		
			目標							
			実績							
			達成率	%						
			目標							
			実績							
			達成率	%						
			目標							
			実績							
			達成率	%						
			目標							
			実績							
			達成率	%						
指標の進捗状況	概ね順調	指標の分析	コロナ禍の収束後より地域活動が活発化するとともに、それぞれの地域振興協議会での活動や体制の見直しも行われている。共助の取組に計上する事業数は大きく増えていないが、環境整備やイベントを通じた多世代交流や助け合いでの移動支援など地域活動の機運は高まっている。							
		指標達成に向け今後の流れ	休止していた地域振興懇談会を再開するとともに、隔月でのブロック別(旧臼杵地区・旧野津地区)連絡会を実施することにより、地域を超えた交流や情報交換を行い、さらなる活性化を図る。なお、活動が円滑に行えるよう助成金申請手続きや運営の工夫等を含むガイドブック作成を進めている。							

< 市民意識調査結果 R6実施結果 >

領域名	必要度	満足度	満足度
見直し領域	2.39	2.01	
向上領域: 今後も現状のサービス水準の維持向上が望まれる領域 強化領域: 満足度を高めるよう事業の強化が望まれる領域 見直し領域: サービス水準が適正となっているか、見直しが必要な領域 検討領域: 施策や事業のあり方や内容の検討が必要な領域		浸透度	81.73%
過去の調査結果(領域)	令和3年度	令和4年度	令和5年度
	検討領域	見直し領域	見直し領域

<施策を構成する主な事務事業一覧表>

事務事業名	事業内容	担当課	事業費(単位:千円) ※人件費含まない		評価シート作成の有無	課長評価			重点事項
			R4年度実績	R5年度実績		進捗状況	今後の方針	施策への貢献度	
1 地域振興協議会活動推進事業	・地域振興協議会運営支援(集落支援員の配置、情報提供、活動等の発信) ・活動補助金による地域振興事業への支援	地域力創生課	37,599	55,679	有	順調	向上	貢献度大	○
2 コミュニティセンター整備事業	・地域振興協議会の拠点施設の整備 ・R5整備事業:下北地区	地域力創生課	39,855	13,241	無	順調	向上	貢献度大	○
3									
4									
5									
6									
7									
8									
9									
10									
合計			77,454	68,920	※事務事業評価シートは対象となる要件を満たした事業のみ作成しています。				

<次年度以降の課題>

設立の経緯等から、活動拠点が連絡事務所、地区公民館、コミュニティセンターと異なっており、所管課も異なることから、一律の方向付けや取り組みの実施が難しい実情にある。現在はバラツキのある形態を整理し、地域の特色を活かしながらも足並みの揃った取組の展開を図っていく必要がある。また、設立から一定の時間が経過し役員が交代した協議会が増え、コロナ化の活動自粛等を経て、今一度、地域振興協議会の役割や目的を整理し、関係者間で共有を図っていく必要が生じている。

施策の評価 (今後の施策の方向性)

評価の選択肢 ○ 向上 .. 現状の通り維持向上する ○ 強化.. 現状より強化を図る
○ 見直し .. 現状を見直し適正化を図る ○ 検討.. 現状の抜本的な検討を行う

<担当課評価>...評価者 担当所属長

担当課評価	評価の理由と次年度以降の取組
強化	コロナ禍が収束し、地域活動を通じた交流やつながりづくりの機運が高まっている。一方で、担い手の不足など人口減少に伴う地域の関係者の将来への不安感が増している状況にある。効率的な拠点施設の整理とあわせ、年2回の地域振興懇談会、令和5年度より本格実施しているブロック別連絡会議を継続することで地域間連携を推進しつつ、地域の関係者らとともに地域振興協議会ガイドブックを作成することにより、地域づくりに関する方向性の共有、並びに地域自治の推進を図っていく。